

入学試験問題（第一回）

国語
六—一

（注意）答えはすべて解答用紙に書きなさい。

〔一〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文には省略した部分があります。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言われている。

（A）「天が人を生み出すに当たっては、人はみな同じ権理（権利）を持ち、生まれによる身分の上下はなく、^aパンプツの霊長たる人としての身体と心を働かせて、この世界のいろいろなものを利用し、衣食住の必要を満たし、自由自在に、また互いに人の邪魔をしないで、それぞれが安楽にこの世をすごしていけるようにしてくれているということだ。

（B）「この人間の世界を見渡してみると、賢い人も愚かな人もいる。貧しい人も、金持ちもいる。また、社会的地位の高い人も、低い人もいる。こうした^①雲泥の差と呼ぶべき違いは、どうしてできるのだろうか。

その理由は非常にはっきりしている。『実語教』という本の中に、「人は学ばなければ、智はない。智のないものは愚かな人である」と書かれている。つまり、賢い人と愚かな人との違いは、学ぶか学ばないかによつてできるものなのだ。

▼^②学問をするには、なすべきことを知ることが大事である。人が生まれたときは、何にも繋がれず縛られず、一人前の男は男、女は女として、自由であるけれども、ただ自由とだけ言つて「分限（義務）」を知れば、わがまま放題になつてしまふ。その分限とは、天の道理に基づいて人の情にさからわず、他人の害となることをしないで、自分個人の自由を獲得するということだ。

XとYの境目というのは、他人の害となることをするかしないかにある。（C）、自分のお金を使つてすることなら、やりたい放題やつても、自由であるからかまわない、というように思えるかもしれないけれども、決してそうではない。ある人がやりたい放題やるのは、他の人の悪い手本になつて、やがては世の中の空気をみだしてしまふ。人の教育にも害になるものであるから、浪費したお金はその人のものであつても、その罪は許されないのだ。▲

自由独立ということは、個人だけのことでなくて、国においても言えることだ。この日本はアジアの東の島国であつて、むかしから外国と交わりを結ばなかつた。自国の産物で自給自足していたが、嘉永年間（一八四八—五四）にアメリカからペリーが来て外国との交わりがはじまつた。（D）今日に至つたわけだ。なお、開港した後でも、「鎖国」や「攘夷」[※]などとうるさく言つていた者もいるが、たいへん狭いものの見方であり、ことわざに言う「井の中の蛙」^③のようなものだ。こういう議論は^④とるにたらない。

日本といつても、西洋諸国といつても、同じ天地の間にあり、同じ太陽に照らされ、同じ月を眺めて、海を共にし、空気を共にし、人情が同じように通ひ合う人間同士である。こちらで余つてゐるものは向こうに渡し、向こうで余つてゐるものはこちらにもらう。お互いに教え学びあい、恥じることもいばることもない。お互いに便利がいいようにし、お互いの幸福を祈る。

※王政復古・明治維新以来、この日本の政治のスタイルは大きくアラタマツた。国際法をもつて外国に交わり、国内では人々に自由独立という方針を示した。具体的には、平民へ苗字を持つことを許し、馬に乗ることを許したようなことは、日本はじまつて以来のすばらしいことだ。※土農工商の位を同等にする基礎がここできた。

これからは、日本中ひとりひとりに生まれつきの身分などといったものはない。ただその人の才能や人間性や社会的役割によつて、その位というものが決まるのだ。たとえば、^⑤政府の官僚を軽んじないのは当然だが、それはその人の身分が尊いからではない。その人がその才能や人間性でその役割をつとめ、国民のために尊い国の法律を扱っているからこそ敬意を払うのだ。個人が尊いのではなく、国の法律が尊いのである。

旧幕府の時代には、東海道を「御茶壺」^{おちゃうほ}が通るときには、みなその前に土下座した。將軍の鷹は人よりも大事にされた。幕府が使う馬には、往來の人も道を譲つた。すべて「御用」^⑥という二字をつければ、石でも瓦でもおそろしく尊いものに見えてしまつていた。

世の中では、ずっとむかしからこうした馬鹿げたことを嫌つてはいたが、しかし、自然にそのしきたりになれてしまつたのだ。上はいばり、下は卑屈になるという見苦しい社会的な空気を作つていた。これらのカンシユウ自体が尊かつたのではなく、茶壺などの品物が尊かつたわけでもなく、単に政府の威光で人をおどして、人々の自由を妨げようとする卑怯なやり方である。内容のないただの空いばりだった。

今日に至つては、全国的にこうしたあさましい制度や社会的な空気というのはないはずである。したがつて、みな安心して、仮に政府に対して不平があつたら、それを抑えて政府をうらむより、それに対する抗議の手段をきちんととつて遠慮なく議論するのが筋である。

入学試験問題(第一回)

国語

六一二

(注意) 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

天の道理や人の当たり前の^⑦情にきちんと合っていることだったら、自分の一命をかけて争うのが当然だ^ア。これが国民のなすべき^⑧義務^義というものである。

一人の人間も、一つの国も、天の与えた道理というものに基づいて、もともと縛られず自由なものであるから、そうした一国の自由を妨げようとするものがあつたら、世界のすべての国を敵にしても恐れることはないし、個人の自由を妨げようとするものがあれば、政府の官僚に対しても、遠慮することはない。ましてや近頃は^⑨四民平等の基本もできたことなので、みな安心して、ただ天の道理にしたがつて思う存分に行動するのがよい。

とはいえ、人にはそれぞれの社会的役割や才能というものがある。才能や人間性を身につけるには、物事の筋道を知る必要がある。それを知るためには、文字を学ばなければならない。「E」、現在学問が緊急に必要とされているのだ。最近のようにうすを見ると、農工商の身分はかつてより百倍も地位が上がり、士族と^①肩を並べる勢いになっている。その農工商の出身であつても、人物が優れていれば政府に^ウ採用される道も開けている。だから、自分の社会的役割をきちんと認識し、その重さを考え、卑しい^いことはしないようにすべきである。

世の中で学問のない国民ほど哀れで憎むべきものはない。知恵がないのが極まると恥を知らなくなる。自分の無知のゆえに貧乏になり、経済的に追い込まれたときに、自分の身を反省せずに金持ちをうらんだり、はなはだしくなると、集団で^dランボウをするということもある。これは恥知らずであり、法を恐れない行為である。世の中の法律を頼りにして、身の安全を保って社会生活をしているにもかかわらず、依存するところは依存しておきながら、都合が悪くなると自分の私利私欲のために法律を破ってしまうやつがいる。^⑩矛盾^{せけん}していないだろうか。

もともと家柄がよく、財産があるものも、お金を蓄えることは知っていながら、自分の子どもや孫をきちんと教育することを知らない。きちんと教育されなかった子どもたちが、また愚かになっていくことも不思議ではない。そうした人間は、やりたい放題をするようになつて先祖から受け継いだ財産もすぐになくしてしまう。こうした愚かな民を支配するには、道理で論しても無理なので、威力でおどすしかない。

西洋のことわざにある「^⑪愚かな民の上には厳しい政府がある」というのはこのことだ。これは政府が厳しいというより、民が愚かであることから自ら^eマネイたわざわいである。愚かな民の上に厳しい政府があるとすれば、よい民の上にはよい政府がある、という理屈になる。いまこの日本においても、このレベルの人民があるから、このレベルの政府があるのだ。

もしも、国民の^⑫徳の水準が落ちて、より無学になることがあつたら、政府の法律もいつそう嚴重になるだろう。もし反対に、国民がみな学問を^エ志して物事の筋道を知つて、文明を身につけるようになれば、法律もまた寛容になっていくだろう。法律が厳しかったり寛容だつたりするのは、ただ国民に徳があるかないかによつて変わってくるものなのである。

厳しい政治を好んで、よい政治を嫌うものは誰もいない。自国が豊かになり、強くなることを願わないものはいない。外国にあなどられることをよしとするものもない。これは人の当然の感情である。

いまの世の中に生まれて、国をよくしようと思うものは、何もそれほど苦悩する必要はない。大事なことは、人としての当然の感情に基づいて、自分の行動を正しくし、熱心に勉強し、広く知識を得て、それぞれの社会的役割にふさわしい知識や人間性を備えることだ。そうすれば、政府は政治をしやすくなり、国民は苦しむことがなくなり、お互いに^オ責任を果たすことができる。そうやってこの国の平和と安定を守ることが大切なのだ。私がすすめている学問というものも、ひたすらこれを目的としている。

(福澤諭吉著 齋藤孝訳『現代語訳 学問のすすめ』より)

※攘夷：(幕末に)開国・通商を求める外国人を侵入者と考え、追い払おうとしたこと。

※王政復古：日本における武家政治が廃止されて、昔のように天皇中心の政治体制に戻ることに。

※士農工商：士(＝武士)と農(＝農民)と工(＝職人)と商(＝商人)。江戸時代の封建社会における階級の考え方に従って、上位から順に並べたもの。

入学試験問題（第一回）

国語
六―三

（注意）答えはすべて解答用紙に書きなさい。

問1 ― 線 a く e のカタカナを漢字に直しなさい。ただし送り仮名が必要なものには送り仮名をつけること。

問2 空らん（ A ） （ E ） にあてはまる最もふさわしい言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし同じ記号は二度以上使わないこと。

ア そして イ つまり ウ だから エ しかし オ たとえは

問3 ― 線①「雲泥の差」とありますが、この言葉の意味に最も近いものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 月夜にちようちん

イ 犬猿の仲

ウ 月とすっぱん

エ ぶたに真珠

オ とんびが鷹を生む

問4 本文中の▼印から▲印の間には論理展開からすると、否定表現でなければならぬところが肯定表現になっているために、意味が通らない部分があります。その部分を一文節でぬき出し、正しくあらためなさい。なお、文を読むときに「ネ・サ・ヨ」などを入れて自然に切れるところを文節の切れ目と考えます。

問5 ― 線②「学問をする」とありますが、この文章では学問をして最終的に目指さねばならないのはどのようなことであると述べていますか。本文中から十五字以内でぬき出しなさい。

問6 空らん X と Y に入る言葉を本文中からそれぞれ四字以内でぬき出さなさい。

問7 ― 線③「井の中の蛙」とありますが、同様に「蛙」の字を用いることわざは多くあります。次のうち空らん「蛙」の字が入るものはどれですか。ふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 藪をつついて（ ）を出す

イ 水清ければ（ ）棲まず

ウ （ ）の川流れ

エ （ ）の面に水

オ 柳の下にいつも（ ）はいない

問8 ― 線④「とるにたらない」とありますが、何がとるにたらないのですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鎖国をやめた後も、海外の人を追いかけて声あげることに。

イ 島国である日本がむかしから外国と交わりを結ばなかったこと。

ウ ある人がやりたい放題やってお金を浪費し、やがて世の中をみだすこと。

エ 自由ということが、個人のことでなく、国についても言えること。

オ 鎖国をやめ、開港して西洋諸国とお互い便利がいいようにすること。

問9 ― 線⑤「政府の官僚を軽んじないのは当然」とありますが、どうしてですか。理由にあたる部分を本文中から二十字以内でぬき出し、はじめと終わりの五字で答えなさい。

問10 ― 線⑥「御用」とありますが、誰がどうしたものに「御用」という二文字をつけたのですか。簡単に答えなさい。

問11 ― 線⑦「情」とありますが、この漢字の部首と同じ意味を表す部首を含む漢字として正しいものを本文中の〓線ア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問12 ― 線⑧「義務」と反対の意味を表す言葉を本文中からぬき出さなさい。

問13 ― 線⑨「四民平等」は「四民」と「平等」の二つの熟語から成り立っています。同じ成り立ちの四字熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一日千秋 イ 悪戦苦闘 ウ 弱肉強食 エ 我田引水 オ 七転八起

入学試験問題（第一回）

国語
六—四

（注意）答えはすべて解答用紙に書きなさい。

問14

——線⑩「矛盾」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 本文ではということが「矛盾」していると言っているのですか。次の文が答えになるように、本文中からそれぞれ七字と九字でぬき出しなさい。

(七字) (つつも) (九字) (こと)

- (2) 「矛盾」という故事成語の元になった話の内容として最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何でも貫き通す矛と何もとめられない盾の話。

イ 盾と矛のどちらの方が必要かという話。

ウ 何でも貫き通す矛と何でもとめられる盾の話。

エ 高性能な矛と盾だと言って商人が買い手をだます話。

問15

——線⑪「愚かな民の上には厳しい政府がある」とありますが、良い政府を持つために、国民がしなければならないことは何ですか。本文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問16

——線⑫「徳」とありますが、この語を説明している部分をここより後から二十五字以内でぬき出し、はじめと終わりの五字で答えなさい。

問17 本文の内容とあっているものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人に関して自由独立が重要であるように国に関しても重要であるが、我が国においてはそれが現在も行われていない。

イ 士農工商のように社会的な役割を分けることをやめた現在は我が国はとても良い国となっている。

ウ 江戸時代にはものの本質に関係なく、とにかく尊いと決められたものを民衆はおそれ多いと思わされていた。

エ 家柄を大切にすることは重要であるが、同じくらい自分の子や孫に教育することも大切である。

オ 人間というものは身分に違いがあつてはならず、どのように過ごす者も賢愚の差なく、平等でなくてはならない。

【二】次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

大地に深く根をおろした木が

千の若枝を持つていることに おどろく

風のことばを聞きとる

万の柔らかな耳を持つていることに おどろく

はりめぐらされた血管に

あたらしい血を送りつつけて

A ことを知らぬ 根のいとなみ

わたしたちの棲むこの天体もまた

宇宙のなかで

くるりと弾んで回転する

② 表情をあたらしくする

はつらつとした鼓動が背中に伝わるので

③ おはよう！ わたしたちも

元気にはね起きずにはいられない

入 学 試 験 問 題 (第 一 回)

国 語
六―五

(注意) 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

手足を うごかさずにはいられない

太陽を空へ打ち上げたら

野へ草摘みに出かけよう

海へ さかなを獲りに出かけよう

働くことを ^④いとわぬすこやかな心とからだに

大自然が

与えてくれる この一日の糧

(新川和江『それから光がきた』より)

問1 この詩の形式を漢字五字で答えなさい。

問2 この詩に使われている表現技法を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 擬声語 ウ 擬態語 エ 直喩法 オ 倒置法

問3 空らん A に当てはまる最もふさわしい言葉を、() 内の意味を参考にして、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 食む(たべる) イ 阻む(じやまをする) ウ 倦む(あきる) エ 蔑む(みくだす)

問4 線①「柔らかな耳」とありますが、「耳」とは何を指していますか。漢字一字で答えなさい。

問5 線②「表情をあたらしくする」とは、何がおとずれることを意味していますか。次の に入れるのにふさわしい漢字一字を答えなさい。

 のおとずれ

問6 線③「おはよう! わたしたちも/元気にはね起きずにはいられない」とありますが、この部分を説明したものとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気分が「くるりと弾んで回転する」ことで、われわれもいつも新鮮で希望に満ちた思いを持たずにはいられないということ。

イ 時間が「くるりと弾んで回転する」ことで、われわれも時間にせかされながら、いそがしい一日を始めるのだということ。

ウ 宇宙が「くるりと弾んで回転する」ことで、すべてのものが常に活動していることを感じずにはいられないということ。

エ 地球が「くるりと弾んで回転する」ことで、自分たちも突き動かされるように生き生きとした一日を始めるのだということ。

問7 線④「いとわぬ」の言葉の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほしがらない イ のぞまない ウ いやがらない エ このまない

問8 最終の連からは、作者の自然に対するどのような気持ちを読み取ることができますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然に比べ自分が無力な存在であると感じ、せめて今日一日だけでも無事に生きていこうとする気持ち。

イ 自然から受けるめぐみに感謝するとともに、その中で毎日をせいっぱい生きていこうとする気持ち。

ウ 自然をかけがえのないものと考え、そこに生きているすべてのものを守っていこうとする気持ち。

エ 自然さえも自分の思うままにしたいと考え、自然に真正面からいんどんでいこうとする気持ち。

問9 この詩のタイトルとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日々おどろきつづける イ 日々あたらしく ウ 日々与えつづける エ 日々すこやかに